

知ってるようで意外と知らない 東海道藤枝宿と家康公の繋がり



東海道藤枝宿は江戸時代に田中城の城下町としても栄えました。田中城には徳川家康もしばしば立ち寄ったと云われ、非常に縁が深かったことをご存じでしょうか?今回は、藤枝宿と徳川家康の繋がり取材しました。

家康によって整備された

東海道

江戸時代に東海道が整備されたのは、今から約420年前。徳川家康が交通網の整備と安定した統治のために、「宿駅伝馬制」を設けたのが大きなきっかけでした。基点の江戸・日本橋から数えて22番目の宿駅が藤枝宿です。宿(しゆく)の東と西の入口に

は木戸が設けられており、毎朝6時に開かれ、夕方6時になると閉められました。宿の全長はおよそ2キロ。その中心機能を担ったのが、人馬の継立(つぎたて)を行う問屋場と、大名・公家などが泊まる本陣でした。また、藤枝宿には、旅籠や商家などおよそ670軒(1843年の絵図より)が軒を連ね、多くの旅人でにぎわいました。また、下伝馬町には田中城へと通じる木戸

(大手口)があり、あたりには武家屋敷も設けられていました。

家康を救った

小川孫三と白子町

蓮華寺池公園の南側、白子(しろこ)商店街にある小川眼科医院。医院の前には「白子由来の碑」があり、近くには「徳川家康公を救った小川孫三」と書かれた大きな看板があります。現在の住所は藤枝市本町となっていますが、かつての名称は白子町で、その由来は徳川家康と深い関わりがありました。

天正10(1582)年、本能寺の変で織田信長が討たれた際、徳川家康は身の危険を感じ、伊賀を越えて岡崎へと逃げました。伝説では、伊勢の白子(三重県鈴鹿市)あたりで敵に捕まりそうになりますが、その時、畑で麦を刈っていた小川孫三という百姓が機転を利かせ、その麦の中に家康を隠して、敵の目を欺いたといわれます。おかげで家康は無事に岡崎にたどり着くことができましたが、孫三は家康をかまくらった罪で伊勢の白子を追われる身に。そんな孫三を不憫に思った家康は、助けてくれた恩返しとして、藤枝に新白子という町をつくり住むことを認



家康は鷹狩り

何度も訪れていた

1607年、駿府に隠居した徳川家康は駿府城の修築を行いました。その工事期間中は田中城に滞在していたともいわれます。また、家康は鷹狩りのために15回以上も藤枝を訪れ、よく田中城に宿泊しました。最後の鷹狩りになったのが1616年のことでした。その日はとても機嫌がよく、京都で流行しているという「鯛の天ぷら」をいつもより多く食べたことが原因でその夜、腹痛と食あたりをおこしました。薬の服用により一旦は小康を得て、駿府城に帰りましたが、その後、病に伏し75歳で亡くなりました。

当時の家康の主治医が残した記録には「腹部にしこりがあった」とされています。また、家康が晩年悩まれた症状については、現代の医療においても胃がんによく見られる症状と一致しているそうです。実際は天ぷらを食べて死んでしまったわけではありませんが、天ぷらをたくさん食べたことにより、間接的に胃がんの症状を悪化させてしまったのかもしれない。

特別展 天下人と東海の戦国大名展

たいがん 泰巖歴史美術コレクション



東京都町田市に2020年開館した泰巖歴史美術館は、戦国時代から近世にかけて450点以上の古文書や刀剣、甲冑、茶器などを収蔵しています。その中には貴重な今まで知られていなかった史料も多く含まれています。特に館名の「泰巖」は織田信長の戒名にちなんでおり、信長関係の資料を多く収蔵し、日本を代表する戦国期の資料群です。

本展では、泰巖歴史美術館の貴重な資料35点を展示し、東海・関東地区の戦国大名たちと信長・秀吉・家康といった天下人の実像に迫ります。

泰巖歴史美術館の収蔵資料が、館外でこれほど多数展示されるのは初めてのことで。この貴重な機会に、ぜひご覧ください。

展示構成

①東海・関東の戦国大名と三国同盟

駿河・遠江・三河を支配した今川義元と、戦国時代最大と言われる「駿甲相三国同盟」を形成した武田信玄・北条氏康の動向を紹介します。

②織田信長の躍進

尾張国に生まれ天下取りに躍進した信長の生涯や、敵対勢力との争い、彼が愛した茶の湯の世界について、古文書や茶道具から振り返ります。

③豊臣秀吉の天下統一

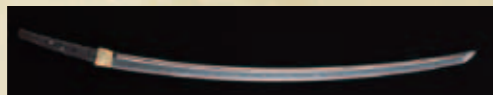
秀吉の天下統一までの道のりを取り上げます。秀吉と家康が激突した「小牧・長久手の戦い」の絵図や陣立状を展示します。

④徳川家康の覇業

天下を制した家康の生涯を紹介します。また、「三河武士」と呼ばれ、彼の天下取りを支えた家臣たちにも注目します。

特別展 名刀展 郷土ゆかりの名刀と五ヶ伝の旅

展示会期 10月22日(土)~12月18日(日)



太刀 備州長船政光 室町時代

当館では、2017年以来、5年ぶりに刀剣展を開催します。平安時代中期に反りのある日本刀が誕生してから、日本刀は「折れず、曲がらず、よく斬れる」という相反する条件を満たした鋭利な武器として、武士の世になくはならない存在でした。日本刀は日本独自の発展を遂げ、1千年以上続いてきた我が国固有の鉄の文化です。鉄を鍛錬する刀工たちの技が詰まっており、時代ごとに移り変わる刀の姿、白銀の輝きを放つ地鉄、変幻自在な模様を映し出す刃文などが、古今東西、多くの人々を魅了してきました。

本展では、日本刀の歴史と魅力を感じていただくために、4つの展示コーナーで構成しています。鎌倉時代から江戸幕末までの時代別の名刀や、日本を代表する刀剣産地「五ヶ伝」の名刀をはじめ、静岡県(伊豆・駿河・遠江)ゆかりの名工と郷土刀など、約30振を厳選して展示します。併せて、日本刀とともに発達し、江戸時代に花開いた粋なデザインの刀装(拵)・刀装具(鐔・目貫・小柄・筭など)も展示し、緻密な金工技術や優れた美意識をご鑑賞いただけます。この機会に、奥が深い日本刀の鉄の文化を感じてみましょう。



藤枝宿商店街謎解きシールラリー 実施期間 10月22日(土)~12月18日(日)

NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送を記念して、徳川家康とゆかりが深い旧東海道藤枝宿の商店街で謎解きシールラリーを開催。対象店舗でシールを集めると、抽選で豪華賞品が当たるキャンペーンに応募できます。



問い合わせ先 藤枝市産業振興部 商店街活性化推進室 TEL:054-643-5250

藤枝市郷土博物館・文学館

静岡県藤枝市若王子500(蓮華寺池公園内) 藤枝市郷土博物館・文学館



休館日:月曜日、祝休日の翌日、11/4・11/24
開館時間:午前9時~午後5時
入館料:大人500円(団体20名以上400円)※名刀展と共通
中学生以下無料、障害者手帳等をご提示の方は無料

お着物でご入館された大人の方には景品をプレゼント!(有料入館者限定)